

文部科学省 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

働くという社会との接続体験を通じて学び、  
自立に向けた社会的生活力を身につける生涯学習プログラムの開発と  
全国普及に向けたモデル化の実践研究

# 社会生活力学習度 アンケート調査・検証結果



# アンケートの調査方法

---

## ■ 期間

2020年5月1日 - 2021年1月31日

## ■ 対象

- ① プログラムに参加者  
(川崎市内福祉事業所の利用者様)
- ② プログラムに同行・見学参加した福祉事業所の支援員様

## ■ 実施方法

就労体験プログラム参加後、翌日以降にアンケートに回答

## ■ アンケート内容

スポーツやエンターテイメントのワクワク・ドキドキするような“晴れの舞台”において、“働く”“他者と関わる”という体験を通じて学び、社会の中で混ざりあいながら様々な経験を重ねることは、自らの新たな可能性を伸ばし、自立した豊かな人生を送るために必要な“社会生活力”を身につけるきっかけとなる。

この仮説を元に参考指標として、特別支援学校、福祉事業所、社会教育の現場等で活用されている、障害のある人が自立し豊かな生活を送る力“社会生活力”を高めるためのトータルプログラム・マニュアル「自立を支援する社会生活力プログラム」のモジュールに沿って内容を構築。

プログラム参加「前・当日・後」で、それぞれどのような学びがあったのかを調査・検証した。

※アンケート詳細は次ページ



「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」  
中央法規出版 (2006/04)  
(著) 奥野 英子, 佐々木 葉子, 興梠 理, 関口 恵美, 大場 龍男

## 第1部 生活の基礎をつくる

- モジュール1 健康管理
- モジュール2 食生活
- モジュール3 セルフケア
- モジュール4 時間管理
- モジュール5 安全・危機管理

## 第2部 自分の生活をつくる

- モジュール6 金銭管理
- モジュール7 住まい
- モジュール8 そうじ・整理
- モジュール9 買い物
- モジュール10 衣類管理

## 第3部 自分らしく生きる

- モジュール11 自分と障害の理解
- モジュール12 コミュニケーション  
と人間関係
- モジュール13 男女交際と性
- モジュール14 結婚
- モジュール15 育児

## 第4部 社会参加する

- モジュール16 情報
- モジュール17 外出
- モジュール18 働く
- モジュール19 余暇
- モジュール20 社会参加

## < 就労体験プログラム参加者用 >

### 就労体験アンケート



以下の項目について、アンケートに御協力をお願いします。

質問	答口答え（該当するところに○をつけてください）
参加した就労体験の日付を記入をお願いします	月○○○○日
(1) あなたの年齢を教えてください。	年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代
(2) あなたの就労経験の有無を教えてください	A. 企業 就労 経験 : あり ( 年前) なし B. 福祉 事業所 就労 経験: あり なし
(3) あなたの障害の有無について教えてください。障害のある方は○をつけてください。※精神障害のある方は、疾患名についても可能な限りお答え願います。	1. 障害なし 2. 障害あり ・障害者手帳は所持していない ・身体障害 ( ) ・知的障害 (B2 B1 A2 A1) ・精神障害 ( 3級 2級 1級 ) → 主な疾患名 ( ) ・発達障害 高次脳機能障害 難病
(4) ビ・ブルデザイン就労体験企画の参加経験回数を教えてください。	初めて 2~5回目 5~10回目 11回目以上 20回以上
(5) 今回はなぜ参加しようと思いましたか？	
(6) 当日どんな仕事をしましたか？	
(7) 就労体験に参加する前日、気をつけたこと、やってみたことはありますか？（当てはまるものすべてに○）	1.早寝・早起き 2.当日持参する飲食物の準備 3.お風呂に入る、爪を切る歯を磨くなど身だしなみを整えた 4.電車やバスの時間を調べた 5.心配や不安なことを誰かに相談した 6.もらったお金をどうするか考えた 8.持ち物などを準備・整理した 9.日用品・洋服など必要なものを購入した 10.着ていく服を準備した 16.天気予報や行く場所などを調べた 17.交通費などお金を準備した 17.就労体験のついでに、行きたい場所などを考えた 18. 就労体験でどんな仕事をするか考えてみた
(8) 就労体験当日、気をつけたこと、やってみたことはありますか？（当てはまるものすべてに○をつけてください）	1.体調管理 1.休憩時間を大切に 2.食事の取り方 3.身だしなみ 4.時間に遅れないように気をつけた 5.仕事中の安全や危険に気をつけた 6.お金や貴重品の管理 8.そうじ・整理整頓 9.自分の得意なことや苦手なことを考えた 10.服装 11.自分の障害について誰かに話したり、サポートをお願いした 11.自信を持ってやってみた 12.いろいろな情報を得る努力をした 12.自分からあいさつしたり、コミュニケーションをとるようにした 16.事前に調べたことを活かした 18.楽しく働くようにした 18.態度や姿勢に気をつけた
(9) 就労体験を経験してから、気をつけるようになったこと、チャレンジしてみたことはありますか？（当てはまるものすべてに○をつけてください）	1.体調管理 1.睡眠時間 2.食生活 3.身だしなみ(清潔にする) 4.時間の管理 5.通勤中や仕事中の安全や危険について 6.お金の管理(貯める、使い方など) 7.住んでる家について(引越・模様替えなど) 8.家のそうじ、ゴミ出し 9.買い物計画 10.洋服について(洗濯、お手入れ、購入など) 11.自分の性格・生活・障害への理解 12.あいさつや他人とのコミュニケーションの大切さ 16.情報を調べる・利用する 17.外出の大切さ 18.働く意味 18.仕事の種類 19.休みの日の過ごし方 20.自分がこれからやりたいこと(趣味・仕事など)を考える 20.社会に参加すること
(10) 今回の体験は、自分の自信となりましたか？	1 ともそう思う 2 そう思う 3 あまり思わない 4 全く思わない
(11) 今回の就労体験を経験してみて、他の仕事にチャレンジしてみたいと思いましたか？	1 ともそう思う 2 そう思う 3 あまり思わない 4 全く思わない
(12) 就労体験に参加して、学んだこと、勉強になったことがあれば教えてください。	
(13) 就労体験に参加して、自分の中で変わってきたことや、意識していること、気づいたことなどはありますか？	
(14) その他、感想や伝えたいことがあればご記載ください(自由記述)	

## < 同行した支援員様用 >

### アンケート(支援者用)



アンケートに御協力をお願いします。いただいた内容は、本企画の検討以外には使用いたしません。利用者さん個々に異なると思いますが、全体を通しての御意見で御回答をいただければと存じます。

質問	答口答え（該当するところに○をつけてください）
参加した就労体験の日付を記入をお願いします	月○○○○日
(1) 今回、参加された支援をしている方(利用者さん)の主な状態像を教えてください。	1 社会に出ていきつかけを作っているところ 2 企業就労に向けて事業所に通い始めたところ 3 企業就労を具体的に目指して活動しているところ 4 その他( )
(2) 今回、利用者さんを参加させようと思った動機・目的は何ですか？(自由記述)	
(3) 就労体験に参加する前日、右の中から利用者さんが気をつけていたことがあれば教えてください。(当てはまるものすべてに○)	1.早寝・早起き 2.当日持参する飲食物の準備 3.お風呂に入る、爪を切る歯を磨くなど身だしなみを整えた 4.電車やバスの時間を調べた 5.心配や不安なことを誰かに相談した 6.もらったお金をどうするか考えた 8.持ち物などを準備・整理した 9.日用品・洋服など必要なものを購入した 10.着ていく服を準備した 16.天気予報や行く場所などを調べた 17.交通費などお金を準備した 17.就労体験のついでに、行きたい場所などを考えた 18. 就労体験でどんな仕事をするか考えてみた
(4) 就労体験当日、右の中から利用者さんが気をつけていたこと、チャレンジしていたことはありますか？(当てはまるものすべてに○をつけてください)	1.体調管理 1.休憩時間を大切に 2.食事の取り方 3.身だしなみ 4.時間に遅れないように気をつけた 5.仕事中の安全や危険に気をつけた 6.お金や貴重品の管理 8.そうじ・整理整頓 9.自分の得意なことや苦手なことを考えた 10.服装 11.自分の障害について誰かに話したり、サポートをお願いした 11.自信を持ってやってみた 12.いろいろな情報を得る努力をした 12.自分からあいさつしたり、コミュニケーションをとるようにした 16.事前に調べたことを活かした 18.楽しく働くようにした 18.態度や姿勢に気をつけた
(5) 利用者さんが就労体験を経験してから、気をつけるようになったこと、チャレンジするようになったことはありますか？(当てはまるものすべてに○をつけてください)	1.体調管理 1.睡眠時間 2.食生活 3.身だしなみ(清潔にする) 4.時間の管理 5.通勤中や仕事中の安全や危険について 6.お金の管理(貯める、使い方など) 7.住んでる家について(引越・模様替えなど) 8.家のそうじ、ゴミ出し 9.買い物計画 10.洋服について(洗濯、お手入れ、購入など) 11.自分の性格・生活・障害への理解 12.あいさつや他人とのコミュニケーションの大切さ 16.情報を調べる・利用する 17.外出の大切さ 18.働く意味 18.仕事の種類 19.休みの日の過ごし方 20.自分がこれからやりたいこと(趣味・仕事など)を考える 20.社会に参加すること
(6) 通常(日常)の支援とは別に、今回の就労体験は利用者さんへどういった学びがあると感じましたか(自由記述)	
(7) その他、感想や伝えたいことがあれば御記載ください(自由記述)	

## 当プログラムが寄与する学びの領域

### 自立を支援する社会生活カプログラム (SFA II) のモジュールに照らし合わせた学び

健康管理 (モジュール1)

食生活 (モジュール2)

セルフケア (モジュール3)

時間管理 (モジュール4)

安全・危機管理  
(モジュール5)

金銭管理 (モジュール6)

住まい (モジュール7)

そうじ・整理 (モジュール8)

買い物 (モジュール9)

衣類管理 (モジュール10)

自分と障害の理解  
(モジュール11)

コミュニケーションと人間関係  
(モジュール12)

情報 (モジュール16)

外出 (モジュール17)

余暇 (モジュール19)

社会参加 (モジュール20)

働く (モジュール18)

## STEP 4 仕事の応用

働く  
(正規就労・アルバイト)  
継続して働く (定着)

## STEP 3 仕事の基礎

働くこと・自分・職業・仕事  
を知り理解する

## STEP 2 社会

社会に出る・人と関わる

## STEP 1 生活

自己管理  
ライフサイクルの確立

学校から社会の移行期  
自立に向けた生涯の各ライフステージ

# 社会生活力

(Social Function Ability)

# アンケート調査・検証結果①

プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の利用者様の  
アンケート結果（有効回答数：45名）

---

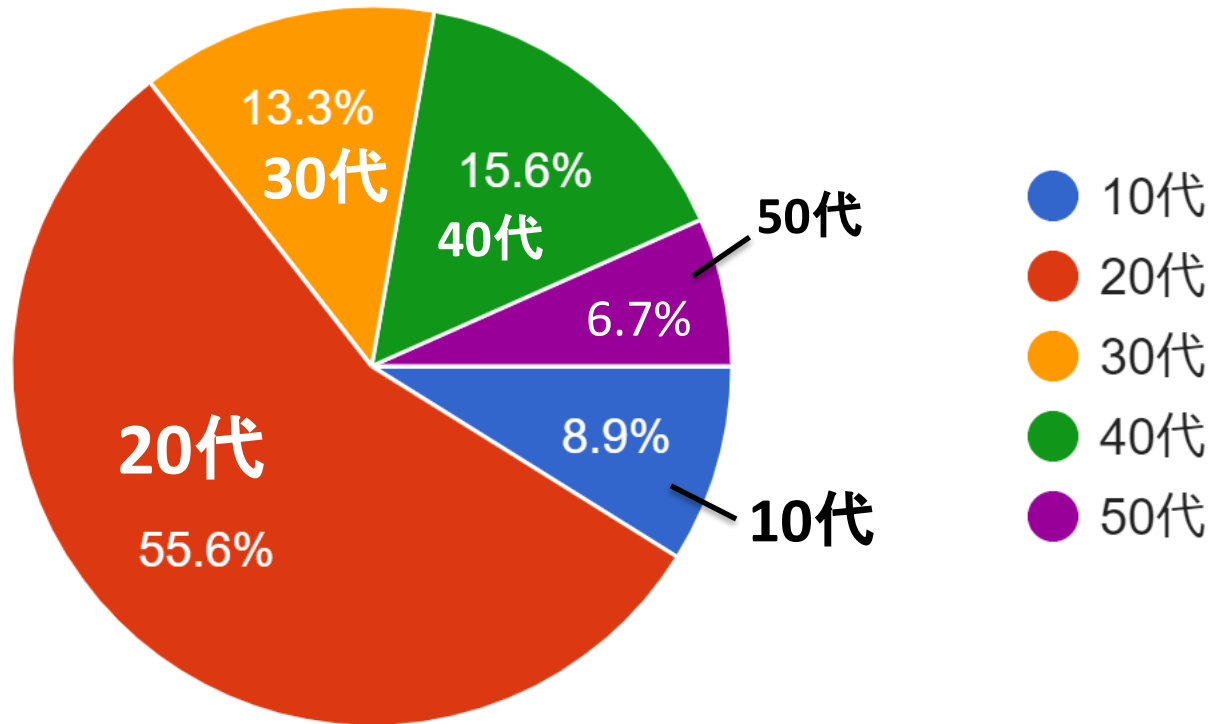
## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < 年代 >

- 10代から50代までと、参加者の年齢層は幅広い
- 20代の参加者が最も多く、次いで10代、30代と全体の7割を若い世代の参加者が占める

※昨年より20代が2割増、10代から30代までが1割増



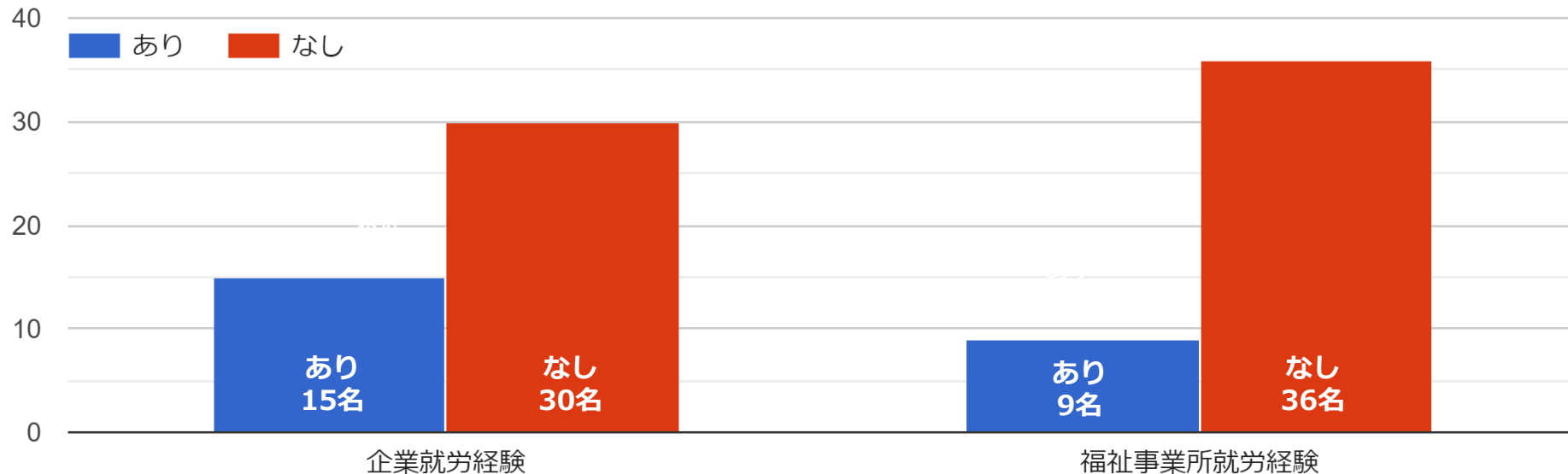
## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < 就労経験の有無 >

- 企業への就労経験がある方は3割強、福祉事業所での就労(A型事業所通所) 経験がある方は2割
- 約7割が社会に出て働いた経験がない
- 障害者が社会に出て学ぶ・働くといった経験や機会が少ないことがわかる

※昨年より企業への就労経験がある方・福祉事業所での就労経験がある方ともに1割減、社会に出て働いた経験がない方が1割増





## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < プログラムに参加した理由（自由記述で42名の回答） >

- 色々な経験を積みたい、社会経験をしたい、挑戦したい、人と接したいからという声が多くみられた
- 実際に就労を見据えて、実践の場として活用しているという声も多数あった
- 参加者の大半は、社会の役に立つことや他者との協調性など、人との関りを意識して参加している

給与が欲しかったから  
 楽しいから  
 給与がいるから  
 やりたいから  
経験を通して社会に触れるため  
仕事に就くための実感を持ちたかったため  
今までやったことのない仕事をしようと思ったからです  
 楽しみにしていたので希望しました  
 体を動かす仕事でしたから  
 お世話になっている川崎市に恩返しのため  
 ルヴァンカップのような大きなイベントをやってみたいと思い  
 参加しました  
社会に触れる機会を設けるため  
 ボランティアに興味がありました  
自分の行動が実際に職場の中で活かされていると実感したかった  
興味があった、色々な仕事を体験してみたいと思ったから  
 仕事をして体調をみる  
就労体験の役に立ちたいからです  
 すすめられたから  
 今まで就労体験をやったことがなかったので参加しようと思いました

今まで就労体験に入ってから、掃除のやり方をもっと学べるかと思って  
参加しました  
 就労体験をしようと思ったから  
 川崎フロンターレのお仕事を知るため  
 ルールとマナーを守るように思ったり、もう少し仕事を増やしたいと  
 思い参加しました  
 中の仕事より外の仕事が楽しかった  
社会に参加する経験を積むため  
 今までやっていた仕事をしようと思って参加しました  
普段とは違う施設外実習をしようと思っていたところ、移行支援の  
職員から勧められたため  
 少し気になったから  
 就労体験をしようと思ったから  
自分のできる範囲で社会との接点を持つため  
社会経験を積む  
他の就労支援の方と一緒に目の前にある仕事をやりとげること  
 中の仕事よりも外の仕事が楽だからです  
 フロンターレが関係していたから  
 外の仕事がしたい  
 初めての就労体験に参加できるのが楽しみです  
 紹介されたから  
会場設営の裏側に興味があった

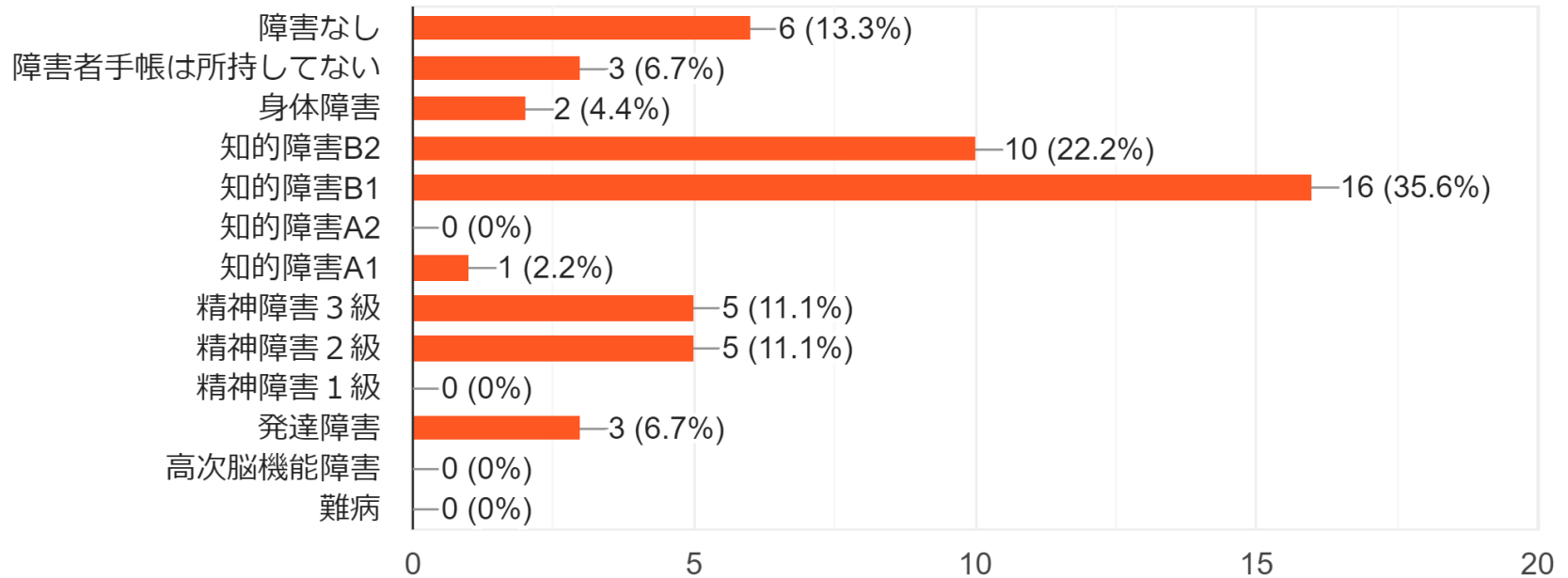
# アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

## < 障害属性 >

- 身体・知的・精神・発達の全障害属性の方々がプログラムへ参加
- 身体・発達が約1割、知的が約5割、精神が約2割
- 障害なしと答えた方は約2割で、ひきこもりや、手帳を保有しない方々も参加

※昨年より知的が約2割増、精神が約2割減



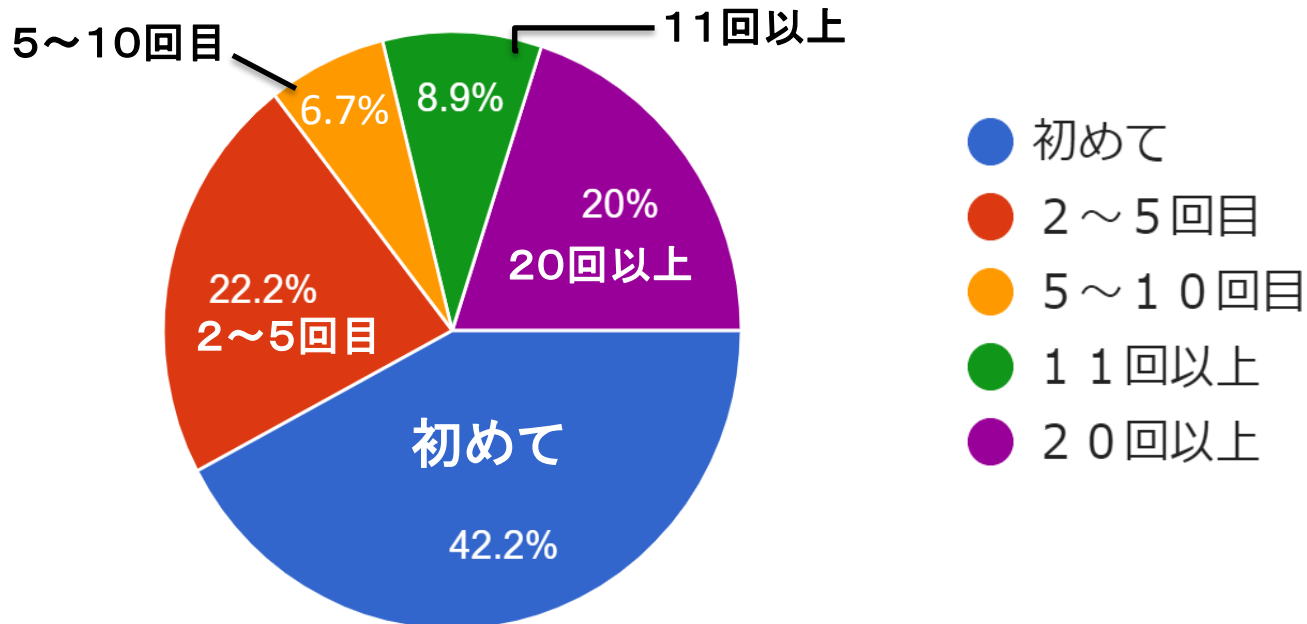
## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < 参加回数 >

- 複数回参加している方が約6割（実践事業の対象期間以前からプログラムを実施している）
- 感染症対策として、開催時間の短縮やプログラム内容変更を行い、参加のハードルが低くなったことから、これまでに参加経験のない事業所からの参加が増えている
- 10回以上参加している方も2割おり、プログラムの選択肢が多く、都度内容が違うことが寄与している
- 一度参加して社会に出た方が諸般の事情で事業所に復帰し、このプログラムに再び参加されることもあり、いつでも戻ってこれる場所にもなっている

※昨年より複数回参加の方が1割減



## アンケート調査・検証結果①

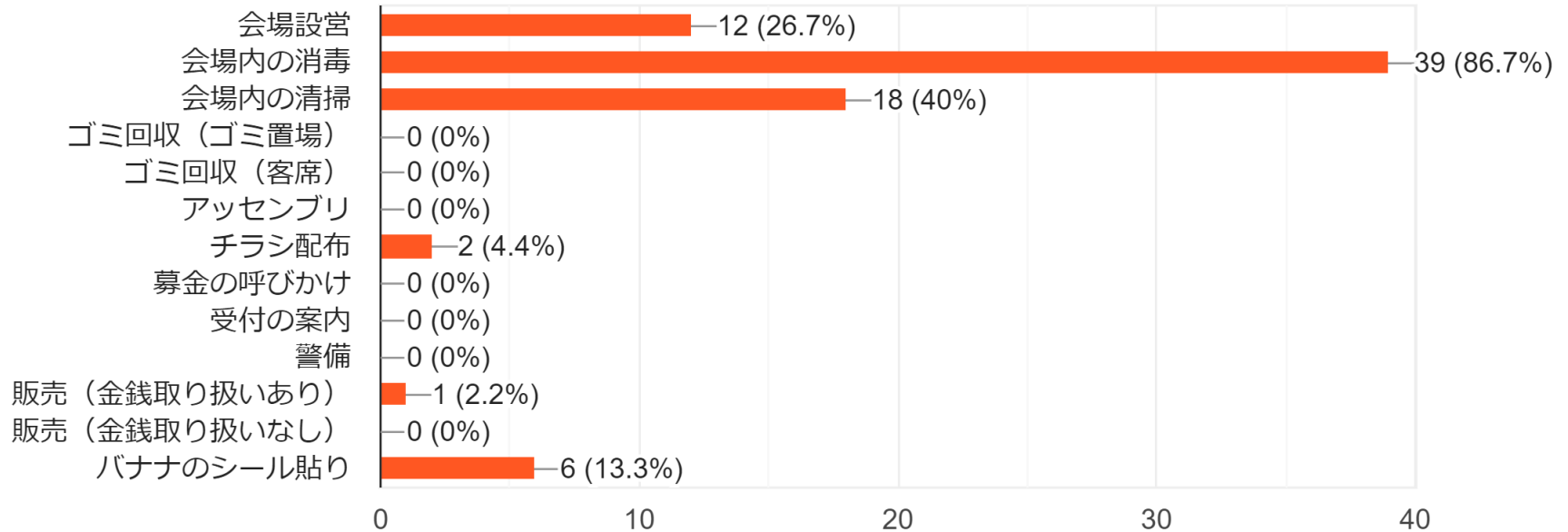
就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < 体験したプログラム（仕事）の種別 >

■ プログラム（仕事）の種類は10種類以上を用意

新型コロナウイルス感染症対策として、不特定多数の方と接する機会の少ない  
会場の設営サポートや会場内の消毒、清掃などがメインになっている

※昨年よりゴミ回収やチラシ配布、受付などのプログラムを体験する機会が減少している



# アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：44名）

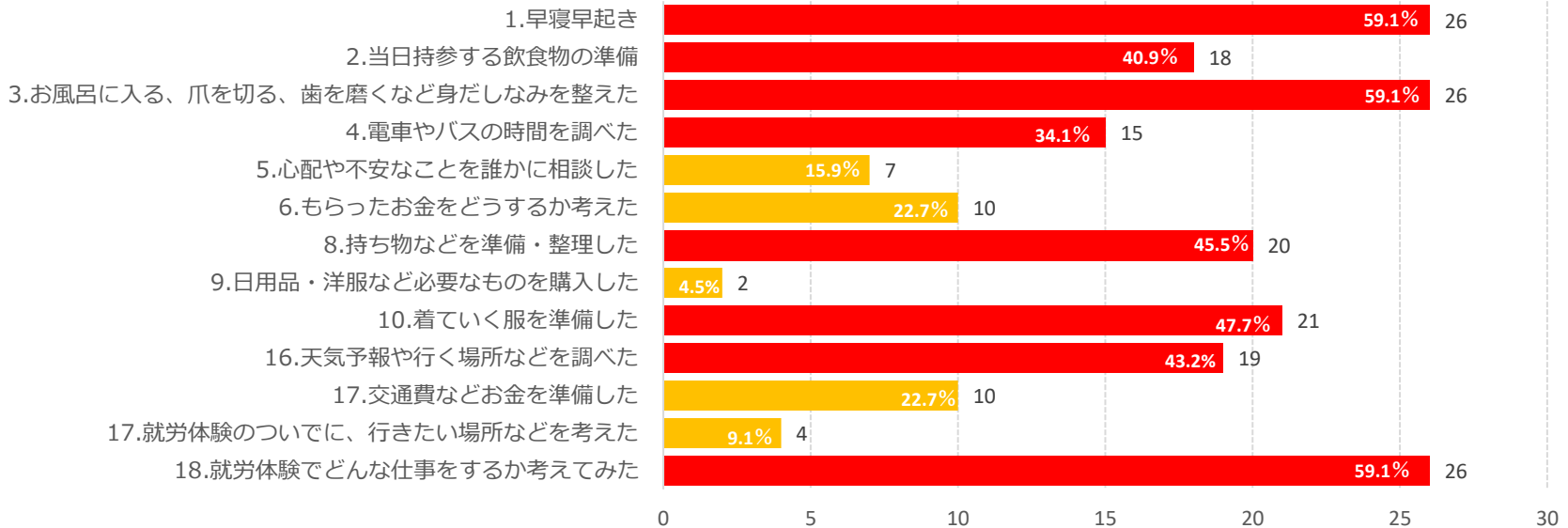
## ＜プログラム参加前に気をつけたこと＞

■ 約5割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

- ・ 生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール2.食生活、モジュール3.セルフケア）
- ・ 自分の生活をつくる（モジュール8.そうじ・整理、モジュール10.衣類管理）
- ・ 社会参加する（モジュール16.情報、モジュール18.働く）

■ 事前には、早寝早起・準備・身だしなみを整えるなど「生活の基礎をつくる」部分、持ち物や洋服などの準備など「自分の生活をつくる」部分、情報を調べる・想像して考えるなど「社会参加する」部分における学びがあった

※ 昨年は「モジュール17.外出」49.3%（前年比17.5%減）、「モジュール18.働く」47.2%（前年比11.9%増）



※ 番号は「社会生活カプログラム」のモジュールに沿った番号

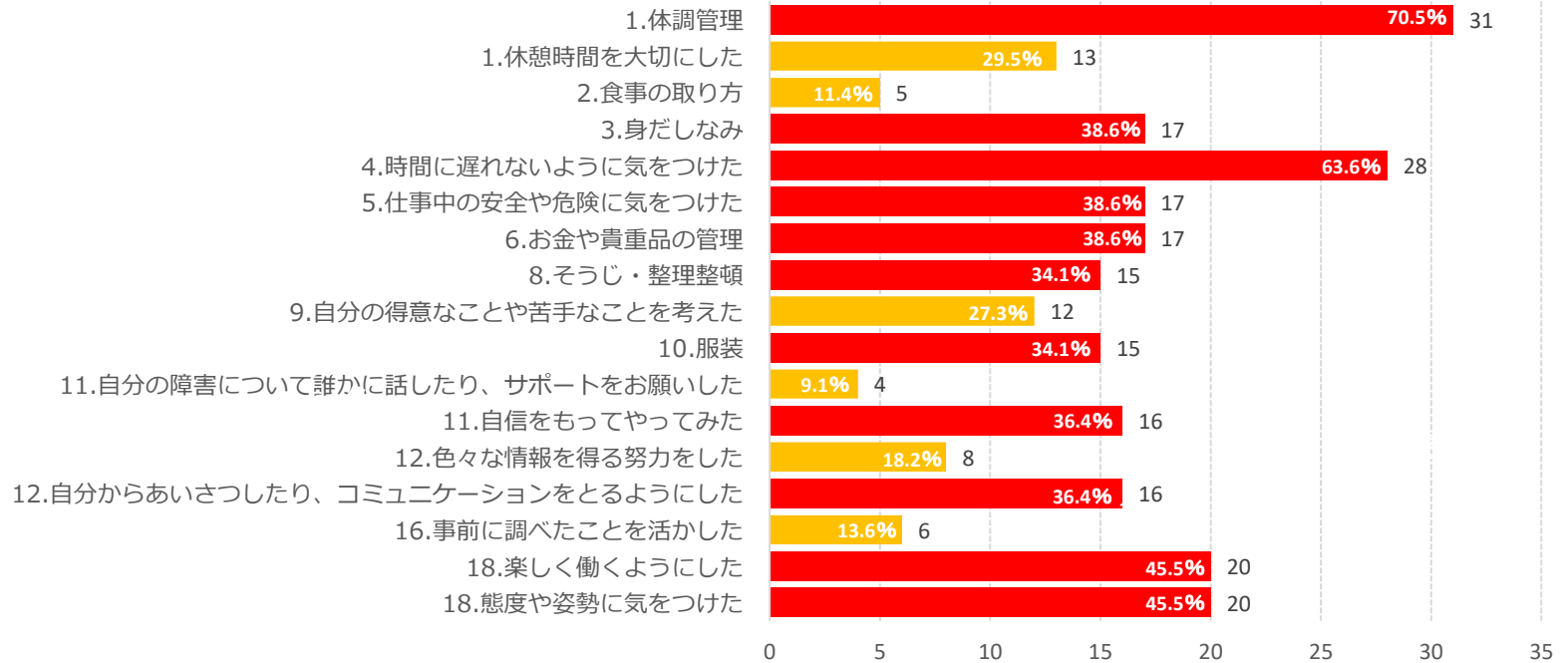
# アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：44名）

## <プログラム参加当日に気がつけたこと>

- 約5割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り
  - ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール4.時間管理）
  - ・社会参加する（モジュール12.コミュニケーションと人間関係、モジュール17.外出、モジュール18.働く）
- 当日は、体調管理・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、  
コミュニケーション・楽しく働く・態度や姿勢に気を付けるなど「社会参加する」部分における  
学びがあることがわかった

※昨年と大きな変化なし



※ 番号は「社会生活カプログラム」のモジュールに沿った番号

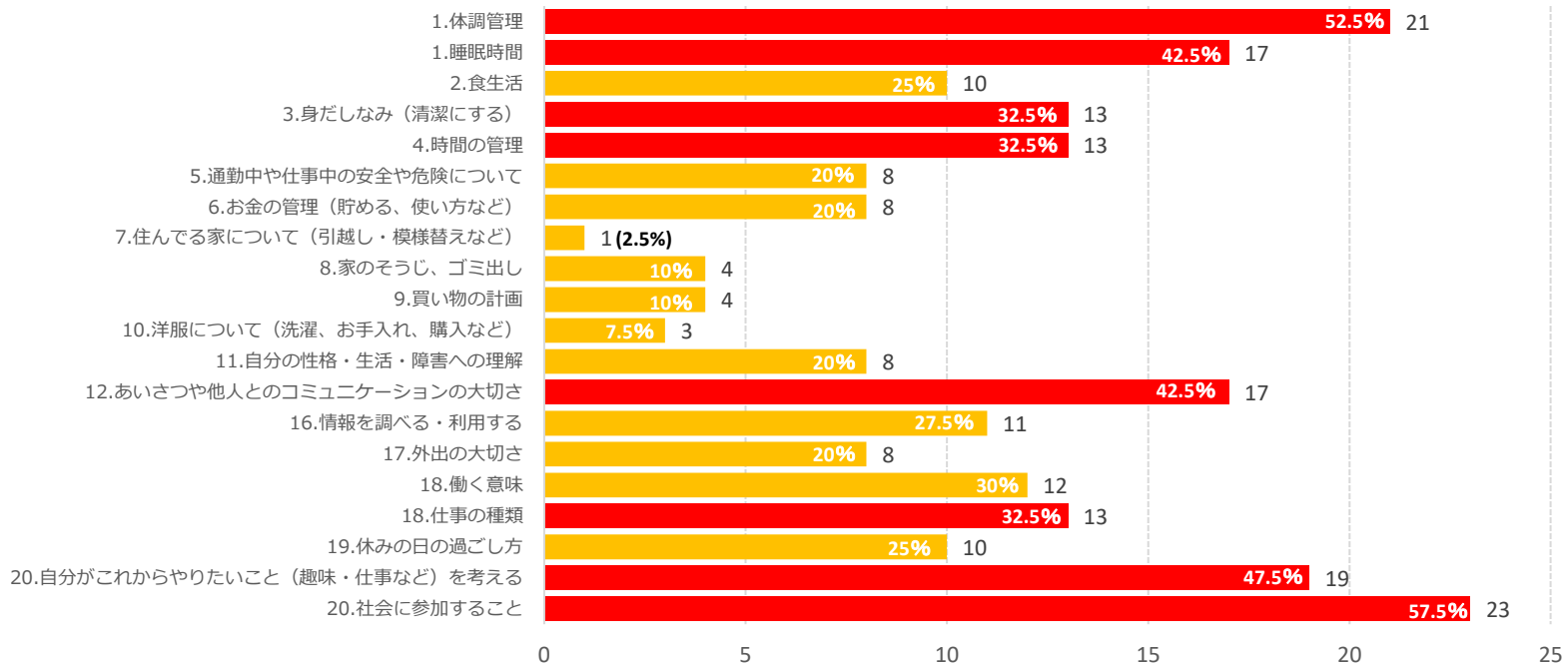
### <プログラム参加後に気をつけたこと>

■ 約5割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

- ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理）
- ・自分の生活をつくる（モジュール12.コミュニケーションと人間関係）
- ・社会参加する（モジュール20.社会参加）

■ 参加後は、体調・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、コミュニケーションなどの「自分の生活をつくる」部分、働く意味・これからやりたいこと・社会に参加することを考える「社会参加する」部分における学びがあった

※昨年は「モジュール10.衣類管理」20.6%（前年比13.1%減）、「モジュール20.社会参加」42.6%（前年比14.9%増）



※ 番号は「社会生活カプログラム」のモジュールに沿った番号

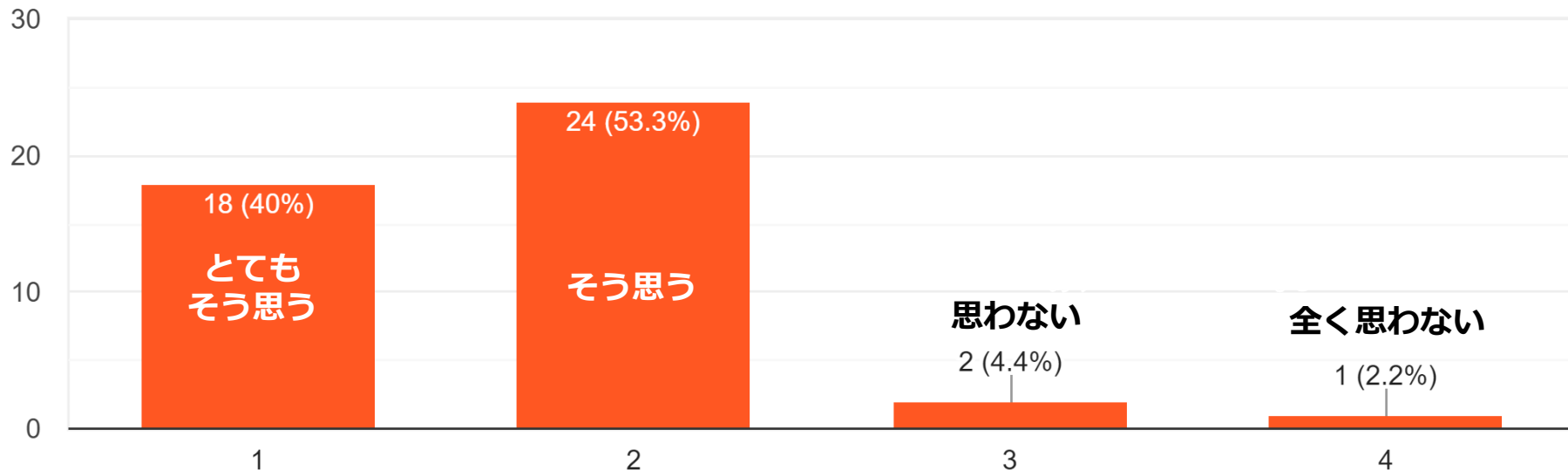
## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < プログラムに参加して自信につながったか >

- 自信につながったという方が約9割
- 逆にできないことがあったり、他人と比較などをして、自信を失う方も1割以下いたが、自分自身の得意不得意を理解する場にもなっている

※昨年と大きな変化なし





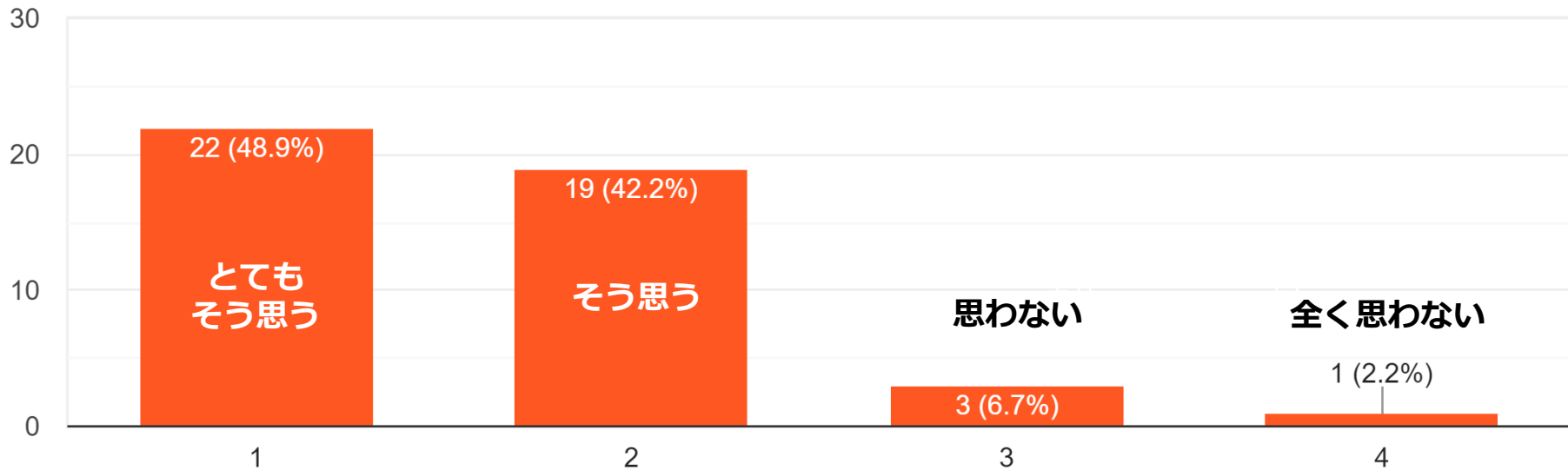
## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < 他のプログラムにチャレンジしたいと思うか >

- チャレンジしたいという方が9割
- 思わない・全く思わないという方が1割以下
- プログラムに参加することで、自信を失っても、多くの方はまたチャレンジしたいというモチベーションが生まれている

※昨年は全く思わないと答えた方は0人



## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < プログラムに参加して学んだこと（自由記述で34名の回答） >

- 挨拶や“ありがとう”などのコミュニケーション、チームワーク、協調性を学んだという声が大半をしめた
- 障害者の方々の生活環境は限定的で、他者と接する機会が非常に少ないことがわかった
- 大勢の人の中で働くことで、自分の周りのコミュニティ外の人や生活のことを考える想像力が育まれている
- 事業所で学んできたことが、社会の役に立っていると実感している
- 普段と違う環境下で、普段は接する機会がない方々と接することが、これらの学びを生み出している

仕事の大変さ

とてもよくできました

大変な世の中でもみんな努力して頑張っていること

1つ1つ清掃することの大切さを学んだ。仕事で諦めないことを学んだ

職員さんからの注意を聞いて学びました

いい体験になりました

普段通っている事業所の方以外の方ともお話ができたこと

色々な人が関わって、一つの試合を作り上げていく意味や大切さ

作業所でやってきた所、他の場所活かしていけると学びました

色々な人の考えがあって社会が成り立っているのだと思いました

社会にいる楽しさや人と話す嬉しさを感じることができました

もっと丁寧にするって考えた

少し張り切って仕事をしたため、疲れてしまい、自分の体力はまだまだ

だなと思い、「体力に合わせて仕事を次回からはしよう」と思った

1つの現場を作り上げるまでに、これだけ多くの人が動いているんだと

いうことを肌で感じた

体力作りが必要

自分の体力がどのくらいか分かった

掃除のやり方やシールの貼り方が勉強になりました

みんなと働けてよかった

あんまり無理をしないこと

これからも色々なところを掃除してもっとキレイにしたいなという事

す

ぞうきんの衛生面

今回は清掃作業をやりましたが、コロナの時期でもあり、大変な状況な

ので、改めて清掃の大切さを学んだ

時間に遅れないように気をつけたことが勉強になりました

ルールとマナーを学びました

周囲の人が積極的に指示やコミュニケーションをとってくれた結果では

あるが、初めて顔を合わせる相手とでもスムーズに作業ができると知っ

た

清掃の大切さを思い出した

人付き合いは大切

お客様が最初に手を付けるところはどこかを考えた

フロンターレの運営ぶりが見れたこと

パルパ作業で集中力を切らさずにやり続ければできることが増えること

が分かりました

こういう仕事もあるんだなと思った

コミュニケーションの大切さ

## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < プログラムに参加して、自分の中で変わったこと、気づいたこと（自由記述で35名の回答） >

- 体調管理、コミュニケーション、外に出る、働くことの大切さに気がついた方が多い
- 自分のことだけでなく、他者（社会）を意識するようになっていたのがわかった
- 「気がつく」「考える」機会となり、能動的な学びや社会参加に向けた具体的な行動に結びついていることがわかった

そうじをみがくのが好きです  
 久しぶりで楽しかった  
なんとなく自分がやりたいことが見付き、感覚がより社会に近くなつた  
 拭き清掃が長く集中することが出来た為、半分今回行った仕事に対して向いていると思った  
 丁寧に正確に仕事をするように意識しました  
 高所恐怖症でそのことを恥ずかしいと思っていたが、スタッフの方も高いところは無理だとおっしゃっていて、自分だけじゃないし、話をしてもいいんだということが分かり、少し安心してホッとしました  
 丁寧にきれいにしてお客様やスタッフや色々な人を使う場所で大事に掃除して意識をおくりました  
 あいさつをしっかりやろうと意識しました  
 自分が体験したことを将来の仕事に活かせたらと思うようになりました  
 就職を意識した  
 もっと丁寧にするって考えた  
 川崎フロンターレの試合に少しでも貢献できたかと思った  
 初対面の方とも連動して作業したり、コミュニケーションを取ることに抵抗が全くなかった  
 仕事の大変さを学んだ  
 説明をちゃんと聞く  
 動きや汚い場所の掃除です

体調管理など  
 バナナシールでのペースが速くて大変でした  
 腰が最近痛かったが、がんばりました  
 自分以外の人間が参加していたことの立場  
 出来る事とは、他の場所や色々なところをキレイにすることで  
 今回、清掃作業しかやっていませんが、スタジアムの事務作業がお手伝いできるとクラブとして貢献できると思う  
 目の前の仕事に集中したことを意識しました  
 社会に参加することへの抵抗感が減ってきた  
 ルールとかマナーとかを意識しました  
 自分が誰かに何かを教える場面になった際、今回自分が指示を受けたときのような適切なアドバイスができるように事前に考えたり準備したいと思えるようになった  
 仕事の大変さを思い出した  
 少しずつだけど社会活動への抵抗が減ってきた  
 集団の中での自由時間が苦手  
 気配りが大切  
 どうしたら効率よくできるかを考えました  
 久しぶりの労働だった。最後までやれてよかった  
 変わったことは、就労体験自分を続ける事ができるようになれるよう、参加すると希望しました  
 清掃系嫌いだったけど意外と楽しかった  
 当たり前なのですが、周囲の方々には自分から積極的に挨拶するように心がけています

## アンケート調査・検証結果①

就労体験プログラムに参加した川崎市内福祉事業所の参加者のアンケート結果（有効回答数：45名）

### < その他感想など（自由記述で25名からの回答） >

- プログラムの内容（仕事）が大変だったが、楽しかったと答えた方が多い
- 「〇〇したい」という、ポジティブなモチベーションへと繋がっていることがわかる
- コロナ禍で活動の場所が制限されている中、就労体験が外出の機会の選択肢として求められていることがわかった

とてもよくできました  
時間は守ること  
これからも続けてほしい  
貴重な経験をさせていただきありがとうございました  
テーブルと手すりの掃除を丁寧にできたことが楽しかったです  
また外で働きたいと思いました  
また機会がありましたら、参加させていただければ嬉しいです。この度はありがとうございました  
まだコロナ多いけど、またこんなイベントできたら絶対参加したいです  
自分の大好きなプロレスの仕事に関われて幸せでした。ありがとうございました  
楽しかった  
疲れたのですが、皆さんで力を合わせて清掃できたことは自信になりました  
少しでも力になれていれば幸いです

自分に合った仕事を探したいと思った  
また参加したいです  
楽しかった。またやりたい  
おもしろかった  
またスタジアムのシートの掃除以外もしてみたいという事です  
今度は事務作業をやりたいです  
ペースがうまくいった  
どんどん社会に出てしっかり自分の手でひとつを決めてチャレンジしたいと思いました  
ありがとうございました  
今後も色々な体験をしてみたい  
スタッフの方の清掃の仕方を見て勉強になりました  
次の就労体験が待ち遠しいです  
また参加したいと思います

# アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果  
(有効回答数：24名)

---

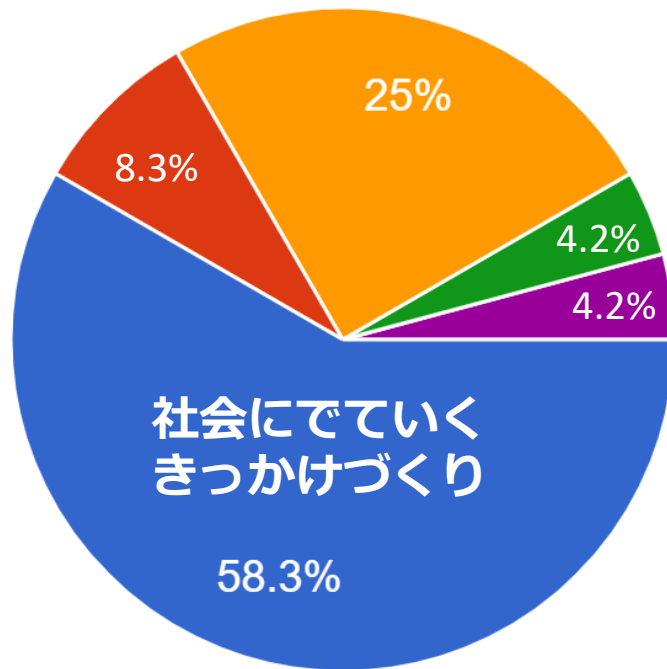
## アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：24名）

### < 参加した利用者様の状態 >

- 「社会にでていくきっかけづくり」という、社会参加の第1歩目の状態の方が約6割を占める
- 事業所の目的である利用者様の就労（社会参加）に向けて、当プログラムを様々な目的でご活用頂けていることがわかる

※昨年より「企業就労を具体的に目指して活動しているところ」と回答した方が1割増



- 社会に出て行くきっかけを作っていこうと思っているところ
- 企業就労に向けて事業所に通い始めたところ
- 企業就労を具体的に目指して活動しているところ
- 就職へ向けて訓練中
- 企業就労に向けて自己理解が必要

## アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：24名）

### < プログラムに参加した理由・目的（自由記述で21名の回答） >

- 働くこと・他者と関わること・社会というものを学ぶ場として活用されている
- 外に連れ出すきっかけとして、ひきこもりの防止策としても活用されている
- 感染症対策として、開催時間の短縮やプログラム内容の変更を行い、参加のハードルが低くなったことから、参加を決めたという意見もある
- 支援者様のご意見から、特別支援学校卒業後から一般就労までの間に溝があり、事業所内でも社会経験を積むような機会を創出できていないことが推測される

就労へ向けた経験のため

事業所の外でコミュニケーションをとりながら作業できるかどうかアセスを取るため

就職への自信を持ってもらうため

様々な場所で就労体験や実習の経験を積んでいただくため

コロナ禍で止まっていた就労活動を再開するきっかけにするため

実習を通じて、現在地を知ってもらうため（体力面）

事務職以外をイメージしてもらうきっかけ。どれくらい自立して仕事ができるのか（場面が変わったときに）

社会参加の準備

外部での仕事経験のため

様々な体験を通して生活していく力を高めたいと考えたので

社会との接点・機会を作るため

働く動機づけのひとつとして経験してほしいため

これまで全く就労経験がなく、今後就労Bを検討する上でのきっかけとするため

就職を希望しているため、経験を積んでいただきたいため

社会に出る機会を作るため

社会に出る経験のため

体験時間の短さ、手すりの消毒という単純な作業内容、静かさ

社会参加に向けた準備のため

外部の作業を通してきっかけを作るとともに、経験を積んでほしいため

体を動かして、働くということへの意識を持ってもらうため

就労経験がないため、施設外実習を通して色々な経験をしていただくためとスポーツなどの裏舞台をみて何かを感じ取ってほしいため

## アンケート調査・検証結果②

### プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：22名）

#### < 支援者様からみて利用者様がプログラム参加前に気をつけていたこと >

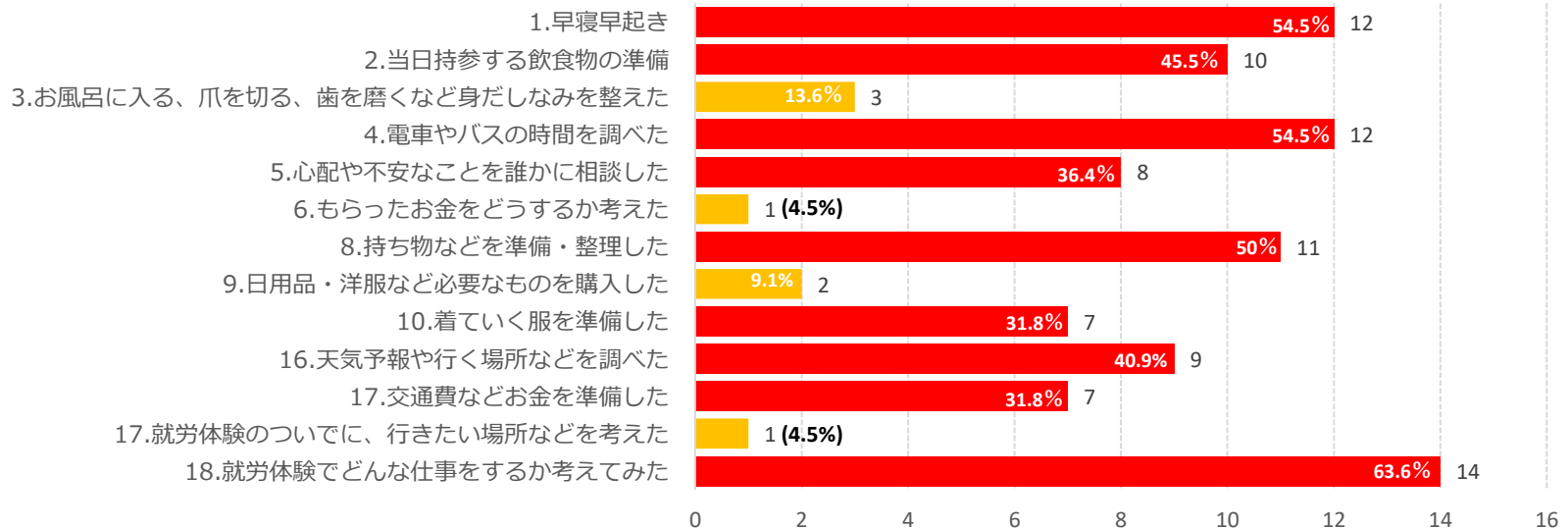
■ 5割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

- ・ 生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール4.時間管理）
- ・ 自分の生活をつくる（モジュール8.そうじ・整理）
- ・ 社会参加する（モジュール16.情報、モジュール18.働く）

■ 事前には、早寝早起・準備・身だしなみを整えるなど「生活の基礎をつくる」部分、持ち物や洋服などの準備など「自分の生活をつくる」部分、情報を調べる・想像して考えるなど「社会参加する」部分における学びがあることがわかった

■ この結果は参加者アンケートと結果とほぼ同様の結果である

※昨年は「モジュール3.セルフケア」33.3%（前年比19.7%減）、「モジュール5.安全・危機管理」23.8%（前年比12.6%増）、「モジュール18.働く」39.7%（前年比23.9%増）



※ 番号は「社会生活カプログラム」のモジュールに沿った番号



## アンケート調査・検証結果②

### プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：21名）

#### < 支援者様からみて利用者様がプログラム参加当日に気をつけていたこと >

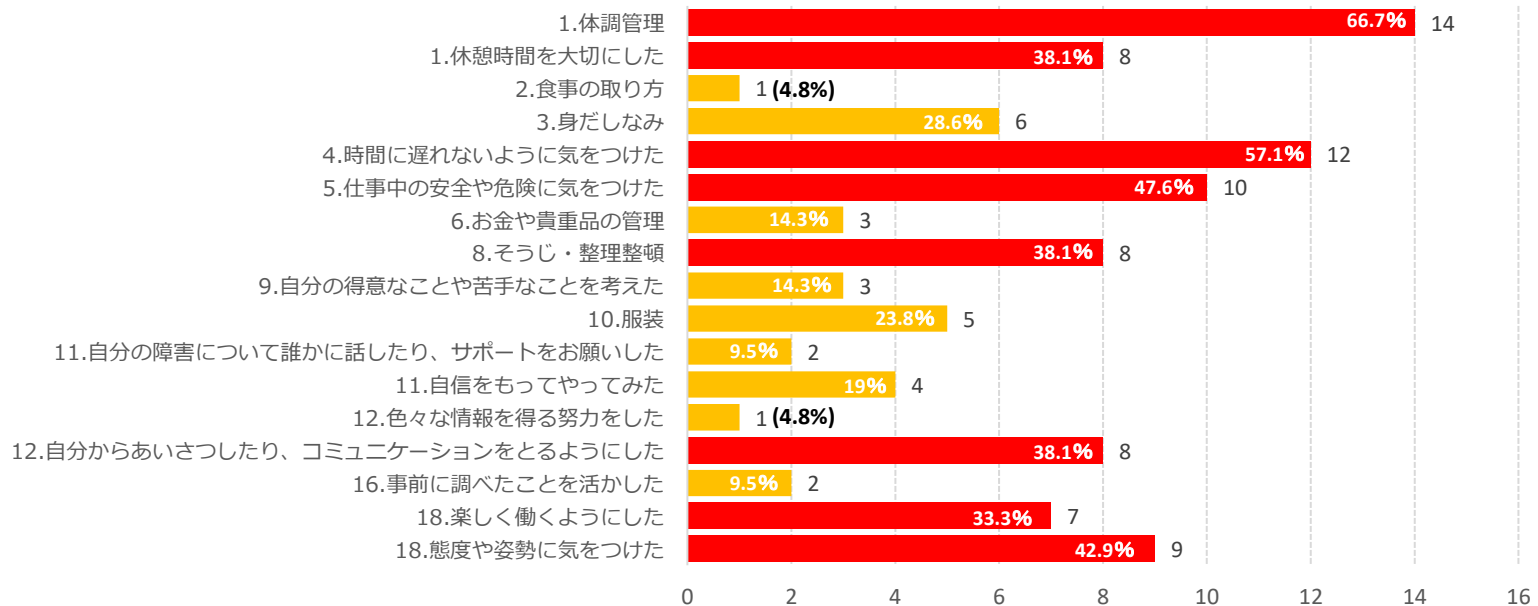
■ 5割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り

- ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール4.時間管理、モジュール5.安全・危機管理）
- ・社会参加する（モジュール12.コミュニケーションと人間関係、モジュール18.働く）

■ 当日は、体調管理・身だしなみ・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、  
コミュニケーション・楽しく働く・態度や姿勢に気をつけるなど「社会参加する」部分における  
学びがあることがわかった

■ この結果は参加者アンケートと結果とほぼ同様の結果である

※ 昨年は「モジュール1.健康管理」77.8%（前年比27%増）、「モジュール5.安全・危機管理」23.8%（前年比23.8%増）、  
「モジュール12.コミュニケーションと人間関係」57.1%（前年比23.7%減）、「モジュール18.働く」42.9%（前年比23.8%増）



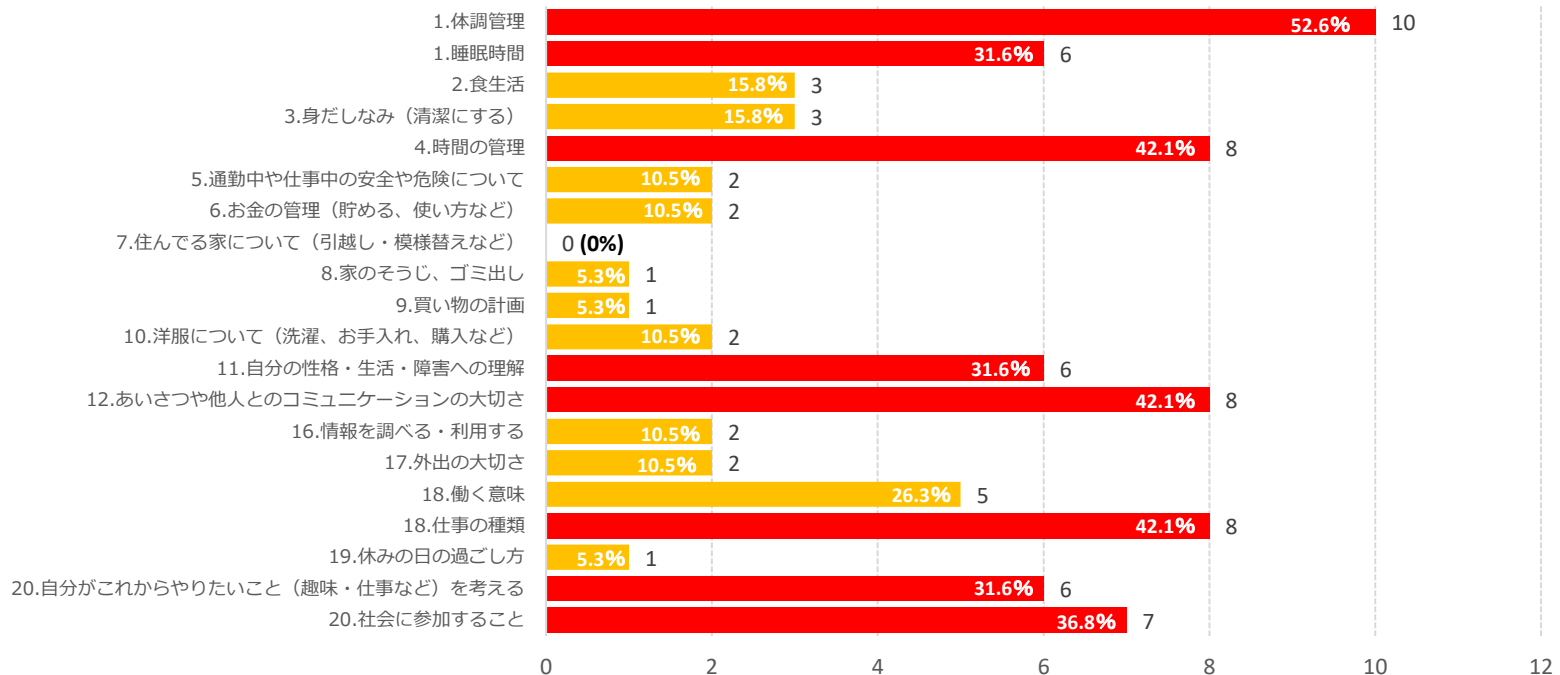
※ 番号は「社会生活カプログラム」のモジュールに沿った番号

## アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：19名）

### < 支援者様からみて利用者様がプログラム参加後に気をつけていたこと >

- 5割以上の回答を得られた項目の該当モジュールは以下の通り
  - ・生活の基礎をつくる（モジュール1.健康管理、モジュール4.時間管理）
  - ・社会参加する（モジュール12.コミュニケーションと人間関係、モジュール18.働く、モジュール20.社会参加）
- 参加後は、体調・時間管理などの「生活の基礎をつくる」部分、コミュニケーション・働く意味・仕事の種類・これからやりたいこと・社会に参加することなどの「社会参加する」部分における学びがあることがわかった
- この結果は参加者アンケートと結果とほぼ同様の結果である
  - ※昨年は「モジュール1.健康管理」61.7%（前年比22.5%増）、「モジュール4.時間管理」15%（前年比27.1%）、「モジュール11.自分と障害の理解」16.7%（前年比14.9%増）、「モジュール18.働く」48.3%（前年比20.1%増）



※ 番号は「社会生活カプログラム」のモジュールに沿った番号

## アンケート調査・検証結果②

プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：24名）

### < プログラムに参加して、利用者様が学んだこと（自由記述で24名の回答） >

- 社会に出ること、働くこと、チームワーク、協調性、コミュニケーションに関する学びがあった
- 就労を考えるにあたっての具体的な課題の可視化につながっている
- プログラム中に与えられた仕事をやり遂げることで「達成感」得ることができ、それが利用者様の自信や満足度につながっている
- 支援者様から見ても、働くという経験を通じて多くの人と関わるこのプログラムが、様々な学びを生んでいることがわかる

距離や音がある中で「報連相」ができる貴重な機会でした  
 外部に出ることにより就職時に近い経験を得られたことはとても大きいと思います。日頃の訓練で行っていることが外部でもできるかを見ることでアセスメントの一環とすることができました  
 TVに映ったり、いつもと違う環境で仕事することで、意識の向上につながると思う  
清掃系の仕事のイメージを持つことができた  
3時間の立ち仕事でどのくらい負荷がかかるか分かった  
 それぞれのペース・役割があり、それらは自分とは別であること  
自分が仕事をきちんと終えるにはサポートが必要であること  
達成感を味わえる  
 日常生活で知り合えないタイプの他者とも知り合える  
 外部の人とつながるきっかけ作り  
与えられたものをやりとげる経験  
 コロナウイルスの対策をした中で外部の仕事の経験が出来ました  
 働く意識が変化したと感じました  
役割が与えられ、実行できる自分の実力を確認できる機会になり、学びになったと思います  
様々な人と会うことで、社会が少しこわいと思うことが減ること  
 本人が興味があることに携わることができたことで、普段では体験することができない達成感を得られた  
他のスタッフとのコミュニケーションやビジネスマナーの実践の体験  
働きながら体調のコントロールを図る体験をする  
 立ち作業に対する疲労感、指示理解（やり慣れてない作業を行うため）、他スタッフへの挨拶、公共交通機関（電車・バス）を使った行動、自分の手で会場を作り上げた達成感。

就労することに対する心構え  
 就労する上での他人とのあいさつやコミュニケーションの大切さ  
 普段とは違った環境でお仕事することで、作業所で学んできた技術やマナー等がいろんな場面で生きてくることに気づけたのではないかと感じました  
 来るだけで社会経験になること。珍しい体験でもあるので、それが刺激になるのではないのでしょうか  
 支援者以外の人との交流や社会参加に向けた準備  
 時間の重要性を感じてもらえていればと思います  
 働くということについて意識が少し高くなったと感じました  
 体調の幅が大きく、なかなか安定しない中、一つの予定をやり遂げたことへの満足感を得ていただけ  
支援者以外の第三者と触れることで他者との交流で起こる課題や社会参加について考える機会を得る  
 時間の管理について、社会参加・就労を目指すにあたって必須だと思います。日常生活の見直しや、挨拶、報告などの大切さについて学びがあったのでは・・・と感じています  
 就労するために必要な事として生活リズムを整える事が必要ということを再認することができた  
 事業所やほかの施設外実習では、自分のペースでできる作業が多い中、今回の就労体験ではチームワークが必要とする作業もあることを学んでいたようである  
社会参加や自分自身の働きによって喜ぶ方がいるという社会貢献を経験し、自分の役割や責任感を持つ機会となることを期待しました。  
 コロナウイルスの対策を実施していて、新しい経験を積むことが出来ると感じました。

## アンケート調査・検証結果②

### プログラムに同行・見学参加した福祉事業所 支援員様のアンケート結果（有効回答数：24名）

#### < その他、感想等（自由記述で19名の回答） >

- 当プログラムへの評価や期待が高い
- 支援者様側からはアセスメントの場として有用な機会であることがわかる
- コロナ禍で運営体制が大きく変わり、プログラムの運営の細かい部分についての指摘もあったので、次年度の運営改善につなげていく

いつもありがとうございます。今後もよろしくお願ひいたします。就労体験の機会をくださり、ありがとうございました。またよろしくお願ひいたします。

参加された方はぜひ他の人にも体験してほしいというほど、よい経験を得られたようでした。今後とも利用者の方に都度声を掛けていきたいと思ひます。

活動ができず、忘れてしまったこともあったが、身につけているものもあることを再確認できた。

バケツの水を教えていただいた流しで処理していたところ、スタッフの方から「トイレのところにある水道でやってほしい」と指摘されました。

特別感もあるので、満足度は高いと思ひます。機会が増えたらいいひきこもり相談部署の委託に向けた準備室の職員を今後も一緒に同行する予定ですので、宜しくお願ひいたします。

いつもありがとうございます。今後もよろしくお願ひいたします。“ボランティア”でも“アルバイト”でもない就労体験という場に初めて関わらせていただき「こうして出来ることをスモールステップから見つけるのか」と自身の学びになりました。ありがとうございました。

とても楽しく参加できました。

当初の申込期限から変更があり、参加確定が5日前の連絡だったが、できればもう少し早く連絡をいただけると助かります。悪天候の中、事前の連絡を含め、安全に配慮くださり本当にいつもありがとうございます。

体験した利用者様も「楽しかった」「また参加したい」と仰っていました。機会がありましたら今後も是非参加させていただきたいと思ひます。

ぜひ、またお手伝ひしたいです。私自身、貴重な経験になりました。ありがとうございますありがとうございました。

コロナウイルス感染症予防の対応含め機会を作っていただきありがとうございます。

時間に遅れてしまい申し訳ありませんでした。今後もよろしくお願ひいたします。

広いアリーナの中で、色々と指示を出してくださりありがとうございました。職員の皆様、お世話になりました。

就労経験がない方だからこそ、自分たちの仕事以外に同じ場所の中で色々な仕事をしている人たちが働いているところを見ることができるいい機会だと思ひます。

## まとめ・考察

- コロナ禍での実施策として、参加人数・開催時間の縮小と、プログラム内容の簡素化を行ったことで、参加のハードルが低くなり、新しい事業所からの参加が増えている。
- 結果として、対人やコミュニケーションへの不安がある利用者様にとって、参加しやすい環境となっている。  
また、支援者様や運営スタッフが参加者する障害当事者一人ひとりと、丁寧に向き合うことができる  
というメリットも生まれている。
- 複数回参加している事業所が都度反省会を行っており、その結果、回を重ねるごとに学びが生まれ、仕事に対しての自主性が生まれている。
- 受入先のスタッフやアルバイトの方から「ありがとう」「助かります」といった声をかけていただく機会が増えている。それにより他者承認欲求が満たされ、自己肯定感の向上につながっており、結果的に昨年と比べ、参加者からは「社会の役に立つ」という声が多くあがっている。
- 参加者と支援員様のアンケート結果には大きな差はないが、支援者様の方が数値が高い項目が多く、参加者本人が学びを得て成長していることに、周りの方が気がついていることがわかる。
- 全体的に外出することへの関心が低くなっているが、これはコロナ禍で、健康や安全に対する意識や不安が高まっていることが考えられる。
- コロナ禍の影響を受け、「働くことへの意識」、「社会にどう参加するか・どう関わっていくか」などへの意識が参加者、支援者様ともに昨年より高くなっている。

## まとめ・考察

- 支援者様にとっては、アセスメントの場に活用いただいたり、就労支援にあたっての具体的な課題を見つけられる機会になっており、相乗効果が現れている。
- コロナ禍で活動の場所が制限されている中、就労体験が外出の機会の選択肢として求められていることがわかった。
- 普段とは違う環境・人と一緒に働くことで、関わりのない他者や社会に対して考える力、想像力が育まれている。
- 参加者にとっては「気づき」「考える」機会となっており、能動的な学びや社会参加に向けた具体的な行動へと結びついている。